認知症施策　ロジックモデル

資料2

Ⅰ

番号	D　事業・取組
1	認知症サポーター養成講座
2	認知症講演会
3	いのちを守るまちづくりイベント
4	歌唱セラピー推進者養成講座

番号	C　初期アウトカム
1	住民が認知症に関する取組について理解している
2	住民が認知症について理解している
3	認知症への正しい（関わり方・偏見がない）理解がある
4	認知症について学んだことを自発的に実践できている
5	認知症予防への意識が高まり日々の行動につながっている

番号	B　中間アウトカム
1	当事者と介護者とのトラブルが減っている
2	本人家族が気兼ねなく周囲に助けを求めることができている
3	チームオレンジが立ち上がっている
4	住民の自助力・互助力が向上し、認知症予防ができている

番号	A　最終アウトカム（目指す姿）
1	認知症や認知症の人に対する正しい理解が地域に根付いている

Ⅱ

番号	D　事業・取組
1	多職種連携連携
2	認知症初期集中支援チーム検討委員会
3	認知症相談窓口設置
4	参加勧奨通知（認知症相談窓口）
5	参加勧奨通知（地域包括支援センター）
6	ケアパス作成

番号	C　初期アウトカム
1	専門職・関係機関が認知症について理解している
2	住民が認知症に関する取組について理解している
3	地域課題を関係者間で共有し、その対策を検討している
4	専門職や関係機関のネットワークがある
5	認知症初期の人が相談に繋がっている
6	本人・家族が認知症の経過について具体的にわかっている
7	安心して相談・治療できる病院がある

番号	B　中間アウトカム
1	状態に応じた適切な医療や介護サービスを受けることができている
2	本人・家族の不安が軽減している
3	家族の介護離職が減っている

番号	A　最終アウトカム（目指す姿）
2	本人・家族が住み慣れた地域で不安なく、今までと同じように暮らし続けられる

Ⅲ

番号	D　事業・取組
1	通いの場・サロン等立ち上げ、継続支援
2	参加勧奨通知（認知症カフェ）
3	認知症カフェ補助事業
4	徘徊SOSネットワーク事業
5	成年後見人制度利用促進基本計画

番号	C　初期アウトカム
1	住民が認知症に関する取組について理解している
2	本人の役割、社会参加できる場所がある
3	介護者が思いを語り合える場所がある
4	住民の見守り意識が高まっている
5	住民が成年後見人制度を知っている
6	必要な人が制度を利用している

番号	B　中間アウトカム
1	本人が自分の望む生活を続けている（希望大使がいる）
2	介護者が介護を楽しめている
3	地域全体で見守りがある
4	当事者の権利が守られている

番号	A　最終アウトカム（目指す姿）
3	認知症になっても尊厳が守られ、自分らしく暮らし続けられる

※認知症とは高齢者に限らず若年性認知症も含む